

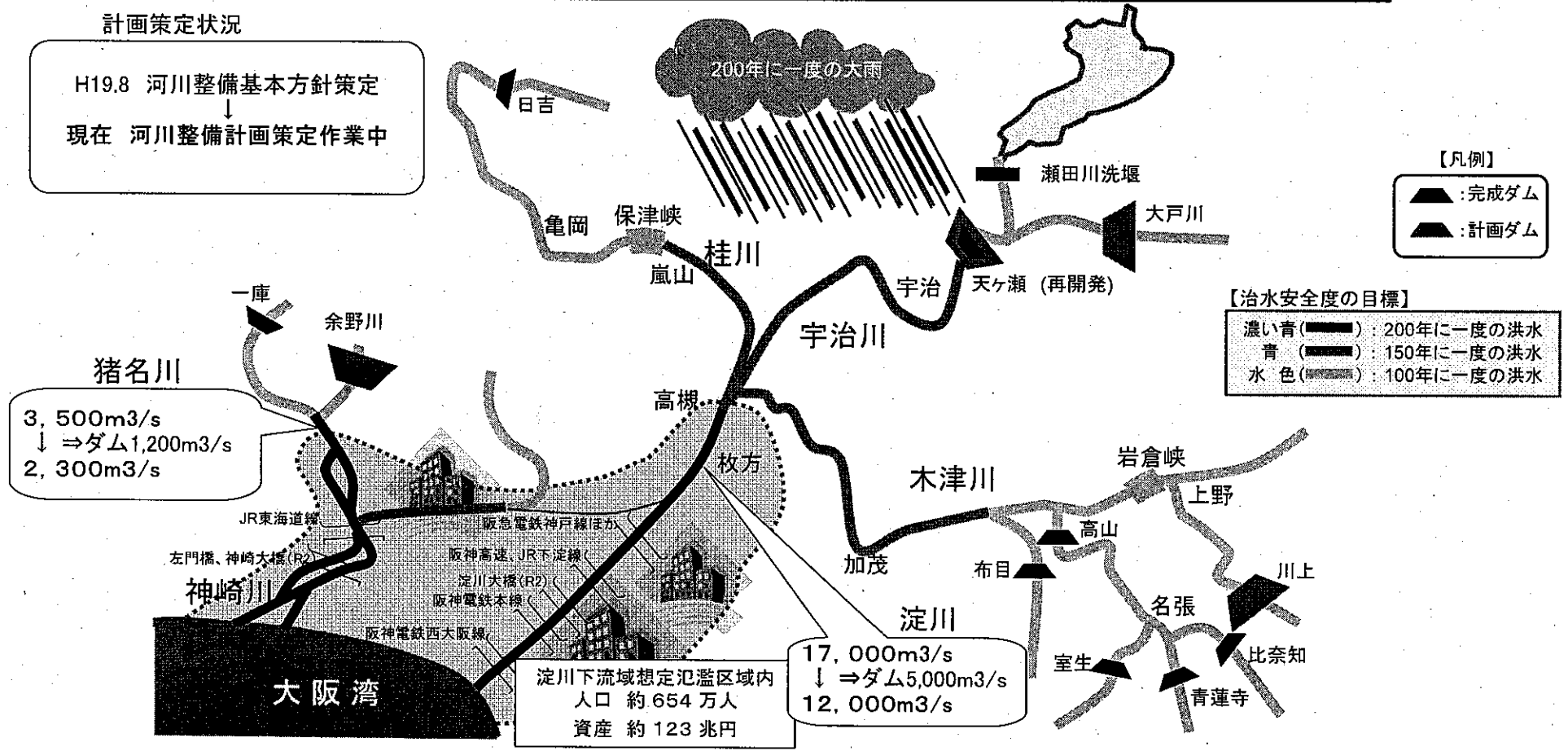
淀川水系の治水対策の進め方について

淀川水系河川整備基本方針

		淀川本川筋		猪名川筋	
基本理念	一部の地域の犠牲を前提としてその他の地域の安全が確保されるのではなく、流域全体の安全度の向上を図ることが必要				
目標	200年に一度の洪水への安全を確保				
対策	洪水: 17,000m ³ /s	河川: 12,000m ³ /s	〔現在 10,500m ³ /s〕	洪水: 3,500m ³ /s	河川: 2,300m ³ /s
		ダム: 5,000m ³ /s	〔現在約4,000m ³ /s〕		ダム: 1,200m ³ /s
		9ダム	6ダム		2ダム
					1ダム

計画策定状況

H19.8 河川整備基本方針策定
↓
現在 河川整備計画策定作業中



【凡例】
 : 完成ダム
 : 計画ダム

【治水安全度の目標】
 濃い青 (濃い青) : 200年に一度の洪水
 青 (青) : 150年に一度の洪水
 水色 (水色) : 100年に一度の洪水

猪名川
 3,500m³/s
 ↓ ⇒ ダム 1,200m³/s
 2,300m³/s

淀川
 17,000m³/s
 ↓ ⇒ ダム 5,000m³/s
 12,000m³/s

淀川下流域想定氾濫区域内
 人口 約 654 万人
 資産 約 123 兆円

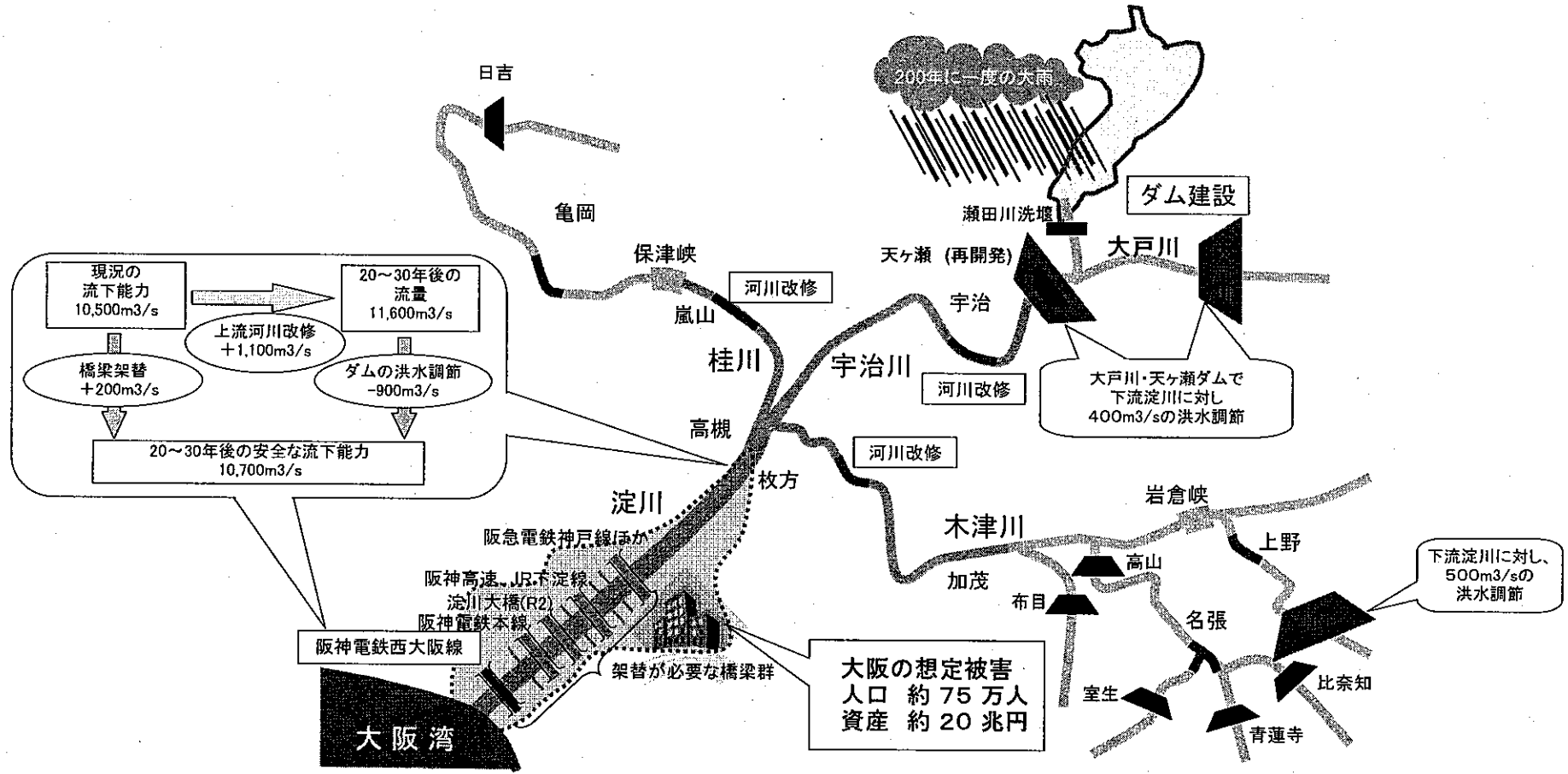
淀川水系河川整備計画について

淀川水系河川整備計画
 (今後30年の治水対策が盛り込まれる)
目標：大阪府域の淀川では、上流での氾濫を前提に安全が確保されており、引き続きその安全を確保しながら、水系全体を戦後最大洪水まで対応できる安全度にも高めるため、淀川下流の橋梁架替と、ダム建設を進めていく。

○3ダムの事業費

[億円]

ダム名	現事業費 (内府負担額)	変更事業費 (見込み)
大戸川ダム	740 (治水107、利水74)	1000<残480> (未定)
天ヶ瀬ダム	330 (治水53)	430<残363> (未定)
川上ダム	850 (治水91)	1220<残770> (未定)



淀川水系河川整備計画の流れ

河川法に基づき以下の手続きを実施

平成19年8月16日 河川整備基本方針の策定
(各府県知事も参加した社会資本整備審議会での審議を経て河川管理者が作成)

平成19年8月28日 河川整備計画原案（意見聴取のためのたたき台）の作成

学識者の意見聴取
(流域委員会)

- ・委員会を21回開催
- ・平成20年4月25日
意見書を国に提出

流域住民の
意見聴取

- ・住民意見交換会を
41会場で実施、約
1,500名の方が出
席
- ・新聞折り込み、HP
等様々な方法により
約3,600名から意見
聴取

自治体の長の
意見聴取

- ・流域市町村長懇談
会を計3回実施し、
延べ75市町村が参
加
- ・H19.12.28に82市
町村長より意見書
- ・個別で301件の意
見聴取

地元住民との対話
プロセス(ダム)

- ・伊賀市、大津市、木
之本町等で14回開
催
- ・約300名が参加

関係府県との調整

- ・6府県の会議を7回
開催
- ・その他、個別の問合
せ等に随時に対応

平成20年6月20日 河川整備計画(案)を発表

平成20年6月20日 府県知事への意見照会

市町村長への意見聴取（各府県知事経由）

河川整備計画の策定

淀川水系河川整備計画案に対する4府県知事共同意見について

【経過】

- H20.6.20 国から大阪府をはじめ流域府県知事へ「淀川水系河川整備計画案」に関する意見照会
- H20.8.23 滋賀・京都・大阪3府県知事船上会議 ー・淀川水系河川整備計画案に対する共同意見を出すことを発表
- H20.9.22 京都府が技術検討会の中間報告を発表 ー・治水対策として天ヶ瀬ダム再開発事業、川上ダム建設事業は妥当
・大戸川ダム建設事業はその緊急性が低い

【今後の予定】

- ・H20.10.31 4府県部長会議
- ・H20.11.2 川づくりシンポジウム（嘉田知事、山田知事出席）
- ・H20.11.11 近畿ブロック知事会議前に、淀川水系河川整備計画案に対する共同意見を発表予定。
- ・H20.11.20頃 滋賀県議案提出（滋賀県12月議会：11/28開会、12/22閉会）
- ・H20.11.23 朝日新聞シンポジウム（嘉田知事、山田知事、橋下知事出席）
- ・H20.12.6～16 大阪府12月議会
- ・H20.12.25頃 共同意見書提出